

授業科目名	医療行動学 (Behavioural Science in Medical Learning)		
対象学年	医学科 1 年生	単位数	2単位
科目責任者	まつした たけひこ 松下 毅彦	所属	医学教育センター (内線 6864)
		メール	tmatsushita@hiroshima-u.ac.jp
科目 コーディネーター	まつした たけひこ 松下 毅彦	所属	医学教育センター (内線 6864)
		メール	tmatsushita@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	<p>10月～1月の間に、数人ずつの小グループに分かれ、全員が以下の4つの実習を行う。</p> <p>1) 看護部病棟実習 病棟看護師と行動を共にし、看護師がどのようなことを考えながら業務を行っているか、看護をしながら何に気を配り、何を視ているのかを知り、看護業務と医師の業務がどう関わっているかを体感する</p> <p>2) 検査・医療処置・手術手技実習 現場の医療が知識のみによって行われているのではなく、医師のさまざまな技術・手技や、画像を読み判断する能力によって支えられていることを理解する</p> <p>3) 外来・病棟実習 現場の医師の患者さんに対する態度や、患者さんに向けた言葉などを実際に見聞きすることで、医師としてどのようにして患者さんに接するべきかを考える</p> <p>4) 研究室実習 医学研究がどのように行われているかを見学・体感することで、多くの研究者による医学研究が現場での医療を支えていることを理解する</p> <p>また、実習に並行してBb9の電子掲示板を使った掲示板討論を行う。この討論では、「よい医師となるためには何を持っていなければいけないか、それを得るために、6年間の在学中に自分が何をすればよいか」について、自分の意見をまず実習開始前に書き込み、実習の進行に伴ってどのように考えが変わっていったか、どのような考えが追加されたかを追記していく。また、クラスメートの意見を読んでその考えにレスを付けるかたちで、討論を進行させていく。</p>		
概要	<p>本科目でめざすのは、「よい医師であるためには何を持っていなければいけないかを考え、それを得るために、6年間の在学中に自分が何をすればよいかを考え、計画する」ことである。そのために、医師の仕事に関わるいろいろな要素にスポットを当て、実際に医師のさまざまな仕事や医療現場を見学・体験する。本科目を通じて、6年間の医学生生活のなかで、何を得心することをめざし、そのために自分が何をするのかを、じっくり考えてもらいたい。</p>		
到達目標	<p>よい医師となるためには何を持っていなければいけないか、自らの考えを述べることができる。</p> <p>医師に必要なものを得るために、在学中に自分が何をすることを計画する。</p> <p>看護が医療においてどのような役割を果たしているかを説明できる。</p> <p>検査や手技・処置などの技術が、医療を行う上で欠くことのできない重要な要素であることを説明できる。</p> <p>医療が患者さんとの間に構築された人間関係を基盤として行われていることを説明できる。</p> <p>診療現場での医療が医学研究によって支えられている実情、および、医療を支えるために研究の果たすべき役割を説明できる。</p> <p>実習で経験したことを省察し、自己の課題を明確にする。</p>		
講義日程	小グループ単位の実習となるため、日程は学生ごとに異なる。 別紙日程表を参照のこと		
出席の取り扱い	実習については、4つの実習すべてを行うことを必須とする。病気等の理由で予定された実習に参加できなかった場合は、追実習を計画する。掲示板討論については、所定の回数書き込みを行うことを単位認定の要件とする。		
評価項目	実習で行ったこと、学んだこと、感想を実習ごとにレポートに記載し提出する。その内容を評価する。また、掲示板討論で書き込んだ意見の内容、および、クラスメートの意見に対する書き込みの内容も評価する。		

評価法	4つの実習レポートを各25点で採点する。これに掲示板討論でのパフォーマンスを加算のうえ、総合点で評価する。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 特になし